

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成28年度終了時点（平成29年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成28年度は、本市の中心市街地において、9月に「全国豊かな海づくり大会やまがた」が開催された。中町エリアにある市民会館での式典行事には、天皇、皇后両陛下が臨席し、市内外からも多くの観光客が参加した。港エリアで行われた関連イベントは、長い行列ができるほどの人気を博し、湊まち酒田の知名度向上に寄与した。また、本市を含む3市1町の協議会で取り組んでいた活動が、NPO 法人日本ジオパークネットワークにより、鳥海山・飛島ジオパークとして認定を受けたほか、北前船寄港地としての日本遺産登録を目指す協議会が発足しており、酒田市長が会長となって文化庁に申請するなど、歴史や文化、自然を生かした観光誘客に向け、自治体間で連携した取り組みが進行した。

認定計画は、2年目を終えた。明治26年（1893年）建造で今なお現役の米保管倉庫であり、本市のシンボリック的存在である山居倉庫群を通年にわたってライトアップする「山居倉庫ライトアップ事業」が完了し、北前船の往来で栄えた湊まち酒田の歴史、文化に光をあてている。また、ライトアップが一般社団法人照明学会の2016年「照明普及賞」に選ばれ、「夜間景観が地方創生の一つの切り口として新たな観光資源になる可能性があり、その普及性は大きい」と評価された。連なるケヤキ並木を背景に、趣深く浮かび上がる一連の佇まいは、夜の観光名所として新たな魅力を創出している。

計画区域の中心に位置する中町エリアでは、空きビルを再生する「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」が完成し、「中町にぎわい健康プラザ」として平成29年4月にオープンした。リニューアルされた外装は、モールと一体的に活用できるよう設計された開口部を備えており、市民からは期待を寄せる声が聞かれる。

開業から1周年を経過した屋台村「北前横丁」は、市内外からの高い集客力を維持しており、来店者は当初目標を達成する状況となっている。地元商店街と連携したイベントを定期的で開催しているほか、毎月の店主会では客から寄せられた意見を共有して改善を図っており、食を通じた情報発信と交流人口の拡大のため、より高い目標に向かって取り組んでいる。

同じく開業1周年を経過した複合施設「てとて中町」においても、フィットネス部門及び飲食部門ともに新たなにぎわいを創出している。フィットネス利用者がヨガマット等を抱えて往来する姿は、従来の中心市街地では見られなかった光景であり、来街機会の増加や市民交流の面でも良い影響を与えている。

また、同エリアに所在する地元百貨店では、「中町モールにぎわい創出フードコート整備事業」の一環として新たな飲食店がオープンしており、昨年度に引き続き、モール周辺に来街者を呼び込もうとする仕掛け作りが進められている。

目標指標の状況を改善し、目標達成に向けた取り組みを推進していくため、完了した事業や、にぎわい創出のキーとなる事業、計画変更によって新たに掲載した事業との連携を図り、より高

い相乗効果を発揮するよう、今後も官民連携して取り組んでいく。

2. 平成 28 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化計画は、市庁舎整備事業、屋台村「北前横丁」、酒田駅前や産業会館の再開発事業などが着々と進んでおり、中心市街地のにぎわい創出のため、鋭意、取り組んでいるところである。

まちづくりを進めていくためには、街なか全体の回遊性向上という視点が重要であり、車に依存する生活スタイルに考慮する必要がある一方、歩行者を大事にする空間の確保によって、日常的ににぎわいが感じられるような取り組みが必要である。そういった意味でも、今後、実施する中町モールの整備に関する事業は、その周辺近隣で官民が実施している種々の事業を結びつけ、まちの活性化を図るための事業であり、観光客だけでなく、市民の暮らしにも潤いをもたらすよう取り組んでいくべきである。

中心市街地活性化という課題は全国的にも厳しい状況が続いているが、今後とも、官民が連携し合い、目標達成を意識した工夫ある取り組みを進めていくことが必要と考える。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
中心商店街の活性化	歩行者・自転車通行量	2,718 人 (H26)	2,779 人 (H31)	2,293 人 (H28)	—	①
	商店街空き店舗数	99 件 (H26)	83 件 (H31)	100 件 (H28)	—	①
街なか観光の推進	観光施設入込数	1,571,285 人 (H25)	1,648,000 人 (H31)	1,594,380 人 (H27)	—	①
街なか交流人口の増進	公共・公益施設利用者数	363 人 (H25)	953 人 (H31)	425 人 (H28)	—	①
	居住人口(参考指標)	2,651 人 (H26)	2,651 人 (H31)	2,562 人 (H28)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」について

最新値（平成28年4月調査）は、基準値と比較して15.6%（425人）悪化しており、

従来からの減少傾向に歯止めがかかっていない。調査地点のうち、一番多くの割合を占める中町モールでの悪化が大きく影響しており、その中でも特に日中の時間帯の悪化が顕著である。一方で、中町モールの隣接地では、屋台村「北前横丁」、複合施設「てとて中町」、地元百貨店におけるフードコート整備事業など、計画事業が順調に進み、多くの来客者でにぎわっていることから、これらの事業効果が最新値に表れていないのは、来街者の行動が点に留まり、回遊していないことが主な原因と考えられる。

そのため、「中町モール改修事業」の事業内容を見直し、平成29年3月の認定計画変更の際に新規事業として「中町モール大屋根整備事業」を掲載した。この事業により、中町モールをハブとして周辺施設のにぎわいを面的に繋ぎ合わせ、減少トレンドの回復を図っていく。

また、新たに平成29年2月に、前述の百貨店におけるフードコートで新たな飲食店がオープンし、モールに面して立地している空きビルを再生した「中町にぎわい健康プラザ」が平成29年4月にオープンを迎えている。

これらの事業による効果と、来街者の回遊性を高めることにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「商店街空き店舗数」について

最新値（平成28年8月調査）は、基準値と比較して1.0%（1件）悪化しているものの、昨年度の結果に比べ、改善が見られる。前回の調査時以降、空き店舗を活用した開業が一定程度あったことによるもので、この中には、基本計画に「食の酒田チャレンジ事業」として位置づけている屋台村「北前横丁」や、複合施設「てとて中町」のオープンも含まれている。

中心市街地まちづくり推進センターと創業支援センターで、市と商工会議所が一体となって積極的な商店街振興施策を展開しており、従来には無かった業種や形態の店舗開業に至っている。一方で、既存店舗における後継者不在や建物の老朽化などによる空き店舗化が問題となっており、目標指標の改善を押し下げる要因となっている。そのため、平成28年度には、地元不動産業者や新規開業経験者らと協働し、「商店街空き店舗ツアー」を行うなど、新しい視点で事業に取り組んだ。また、各店舗のバックヤード見学や商店主との交流を深める企画も実施している。

屋台村をはじめとした施設の魅力をにぎわいの牽引役として生かすとともに、今後の「中町モール改修事業」、「中町モール大屋根整備事業」、「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」、「酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業」等による経済効果や都市環境の向上をPRし、新規開業や定着を促進する取り組みに注力していく。このことから、目標達成は可能であると見込まれる。

「観光施設入込数」について

最新値（平成27年度累計）は、基準値と比較して1.5%（23,095人）増加しており、目標達成に向けて改善している。これは、本市で最大の入込数を誇る「山居倉庫」（夢の倶楽）や、港エリアの拠点施設である「酒田みなと市場」を中心とした観光客の増加傾向を反映したものである。特に、前計画の事業として整備した「酒田みなと市場」では、新テナントの入居や既存の人気テナントの拡張によって、高い実績を維持している。また、社会実験として実施した「中心市街地循環バス運行事業」による回遊性向上の効果があったものと考えられる。

平成28年度には、全国豊かな海づくり大会やまがたが開催され、港エリアをはじめとした中

心市街地に非常に多くの観光客が訪れた。

さらに、湊まち酒田の観光という意味では、鳥海山・飛島ジオパークの認定に加え、北前船をテーマとした日本遺産への申請など、自治体の枠を超えた取り組みを展開しているほか、酒田港で初となる外国クルーズ船の寄港が決定しており、外国人旅行客を含めた観光客の増加が期待されている。

歴史や文化、自然環境、港といった本市固有の観光資源に対する注目度の高まりを生かしながら、効果的なPRと相乗効果を発揮することによって、目標達成は可能であると見込まれる。

「公共・公益施設利用者数」について

最新値（平成28年9月調査）は、基準値と比較して17.1%（62人）増加している。これは、平成28年1月に開庁した市役所の新庁舎内に整備した「にぎわい交流サロン」が新規に稼動したことによるものである。新庁舎は、第2期工事中であるが、より多くの市民が訪れ、広く活用し、街なか回遊の起点となるよう工夫して運用していく。

平成29年4月には、「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」が完了し、「中町にぎわい健康プラザ」がオープンした。当該施設は、中町エリアにある空きビルを再生したもので、市民交流や健康増進のための機能を有している。市民交流スペースは、来街者の休憩や待ち合わせなどに利用できるよう開放しており、回遊性や滞留性の向上にも資すると考えられる。健康増進機能では、各種マシンを使った健康づくりができるほか、健康講座のための多目的スペースを備えており、健康に関心がある多くの市民が利用する施設となっている。また、中町モールに面している立地特性を考慮して、イベント開催時にモールと一体的に活用できるよう工夫されており、市民交流の拠点として大きく貢献するものと考えている。

また、公共交通に関する新しい計画を策定し、人と地域の交流を支える公共交通を目指した取り組みが進められており、平成29年3月の認定計画変更の際に新規事業として掲載した「新バスマップ活用事業」も、市営バスの利便性向上を図り、来街しやすい環境整備のために行っているものである。今後も、認定計画に基づき、施設運営の在り方や交通ネットワークの在り方などが相互に連携し合うことで、幅広い年齢層が来街し、多様な市民活動や交流が持続的に行われるまちづくりを進めていく。このことから、目標達成は可能であると見込まれる。

「居住人口（参考指標）」について

「居住人口」は、参考指標として位置づけているものであり、基準値の水準を維持することを目標としているが、最新値（平成28年9月）は、基準値と比較して約3.4%（89人）減少している。人口減少は市全体の問題であり、中心市街地の居住人口も減少傾向となっているが、計画区域の中心部において、高齢者向け住宅を含む複合施設「てとて中町」がオープンし、民間事業による街なか居住の動きが出てきている。また、長年の懸案であった酒田駅前の大型商業施設跡地を整備する「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」では、特定目的会社が設立され、集合住宅を含めた複合施設の整備に向けて事業を行っている。市でも、移住推進施策や住宅改善支援施策を継続して実施し、居住誘導を進めていくが、「空き家等総合対策事業」では、新たに空き家情報サイトの開設を予定しており、ストックの活用や流動化を促進する事業を展開していく。

今後、計画事業を着実に実施するとともに、相互の連携によって都市機能の魅力をさらに向上させることによって、街なか居住の気運を高め、人口社会動態の改善に向けた取り組みを行って

いく。このことから、目標達成は可能と見込まれる。

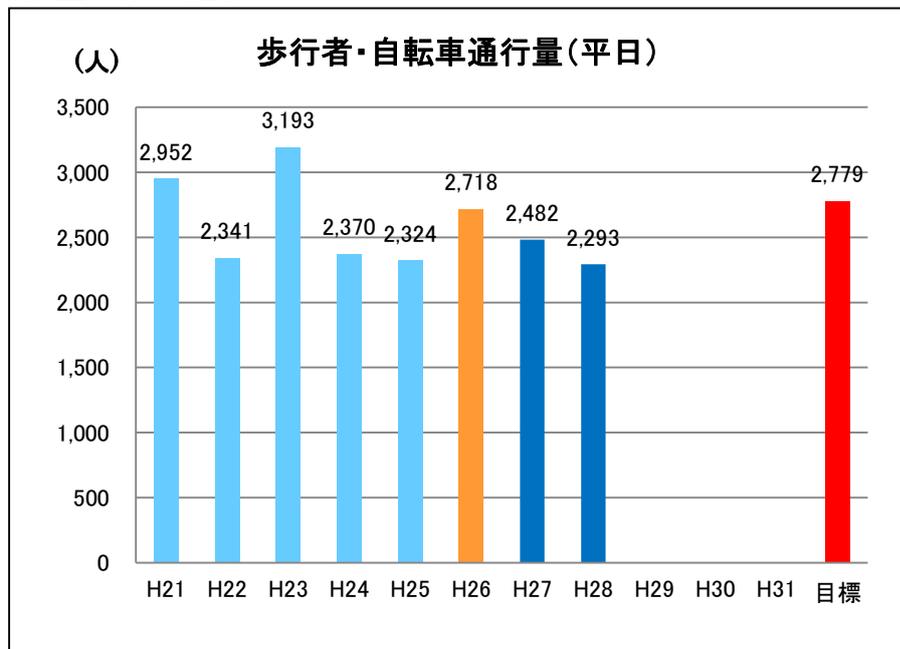
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップの実施から変更はない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P. 70～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,718 (基準年 値)
H27	2,482
H28	2,293
H29	
H30	
H31	
H31	2,779 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年4月の第4火曜日に3地点において7～19時で計測

※調査月：平成28年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の3地点における歩行者及び自転車の通行量

[ジャスコ跡地前、大通り商店街、中町モール]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町モール改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	中心商店街のシンボリック歩行者専用道路をリニューアル改修し、イベント広場機能や憩いの場としての快適な公共空間として強化整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に設計業務を行い、事業実施中である。 当初から計画していた路面改修に加え、回遊性や滞留性、イベント利便性を高めるための機能（子ども水遊び施設や大屋根の整備等）を追加導入することとし、平成30年3月の完成を目指している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加20人/日である。

②. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年12月に第1期工事が完成し、平成28年1月に新庁舎が開庁した。現在、第2期工事中である。「にぎわい交流サロン」では、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された観光パンフレットやイベント情報に接するなど、市民交流や情報発信の場になっている。付帯駐車場や外構整備を含め、平成30年3月の事業完成を予定している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加109人/日である。

③. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための「集いのスペース」と、健康づくりの拠点となる「健康増進スペース」を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成29年2月に改修工事が完成し、4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンした。イベント等のソフト事業による活用や、他の計画事業との連携により、にぎわい創出のための工夫ある運用を図っていく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加84人/日である。

④. 食のさかたチャレンジ事業（酒田北前横丁屋台村運営協議会）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	飲食業を志す人を対象に、安価な家賃でのトライアル店舗の開設を実施し、将来の担い手育成、にぎわい創出を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年10月、空き店舗跡地に屋台村「北前横丁」がオープンし、平成28年3月には、整備した10店舗すべてで営業を開始した。市内外を問わず多くの来客があるうえ、工夫あるイベントを企画・実施するなど、まちのにぎわいと活性化を意識した運営を行っている。 目標設定時に見込んだ事業効果は、通行量の増加94人/日である。

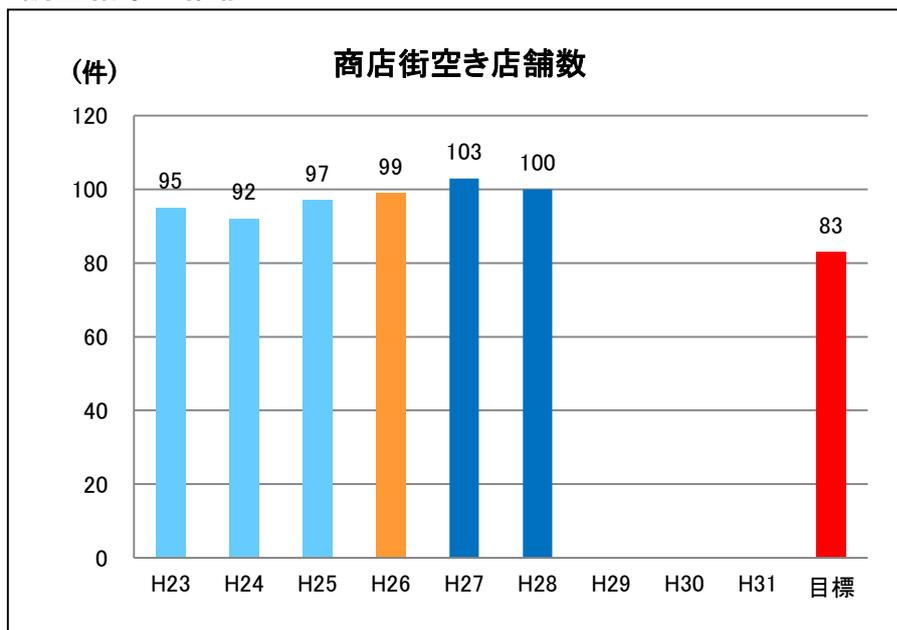
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。目標指標の最新値では、すべての調査地点で減少傾向に歯止めがかかっておらず、全体的にスケールダウンしている。特に、一番多くの通行量がある中町モール周辺では、民間事業者による活性化事業が複数展開され、多くの来客でにぎわっているにも関わらず、通行量が増加していない。これは、来街者の行動がスポット的に留まっており、回遊していないことが原因と考えられる。このことから、今後、着工予定である「中町モール改修事業」において、買い物客や子ども連れファミリー層をターゲットとした回遊性、滞留性の向上と、イベント利便性の向上を図るための機能を追加導入することとし、新規事業として「中町モール大屋根整備事業」を盛り込んだ。これにより、中町モールを中心とした魅力ある都市空間を面的に再構築し、新しいにぎわいを創出していく。

平成28年度には、「中町モールにぎわい創出フードコート整備事業」の一環として中町エリアの百貨店に新しい飲食店がオープンしており、若年層を中心に好評を得ていることに加え、モールに面した空きビルを再生する「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」も完了していることから、これらの事業間とも連携を通じ、悪化している通行量の回復を図り、目標達成に向けた取り組みを重点的に推進していく。

「商店街空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P. 73～P. 76 参照

●調査結果の推移



年	(件)
H26	99 (基準年 値)
H27	103
H28	100
H29	
H30	
H31	
H31	83 (目標値)

※調査方法： 商店街の空き店舗、毎年8月に5商店街において現地調査

※調査月： 平成28年8月

※調査主体： 酒田市

※調査対象： 中心市街地内の5商店街における空き店舗数

[中町中和会商店街、中通り商店街、大通り商店街、酒田駅前商店街、協同組合たくみ銀座]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 空き店舗改装助成事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者、又は当該店舗を賃貸する者に改装費を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」（平成23年4月開設）が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街では、平成27年度に15店舗、平成28年度に6店舗が交付実績となり、空き店舗数の悪化防止に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗入居者支援事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。</p>

②. 空き店舗入居者支援事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して新規に開業する者の賃貸借料を助成し、空き店舗への出店を促進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>官民連携によって開設された「中心市街地まちづくり推進センター」（平成23年4月開設）が所管して事業展開しており、各種商店街振興サービスのワンストップ化を図っている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街では、平成27年度に14店舗、平成28年度には4店舗が交付実績となり、空き店舗数の悪化防止に寄与している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、「空き店舗改装助成事業」と合わせ、空き店舗数の減少15件である。</p>

③. 創業促進事業（酒田市・酒田商工会議所）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	創業支援センターを開設し、創業相談のワンストップ化や創業塾等を実施し、空き店舗の活用を含めた新規開業を促進するもの。
事業効果及び進捗状況	<p>創業支援センター（平成26年9月開設）では、創業支援コーディネーターがワンストップで対応しているほか、開業後のフォローアップも行っており、多くの相談が寄せられている。</p> <p>目標指標の対象となる商店街では、創業支援を受け、平成27年度に7店舗、平成28年度に8店舗が新規開業している。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果は、空き店舗数の減少5件である。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

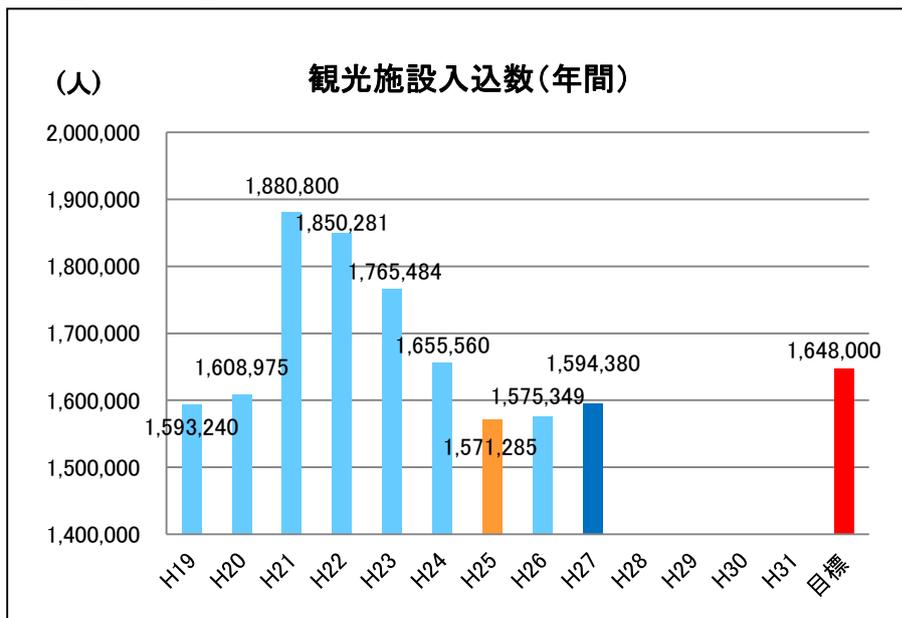
主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。空き店舗対策事業は、中心市街地まちづくり推進センターや創業支援センターによる官民一体の体制で展開しており、開業相談や開業後のフォローアップ相談に応じている。

空き店舗を活用した新規開業数は、毎年一定程度の実績があり、「商店街空き店舗数」の最新値は、これまでの悪化傾向に歯止めがかかりつつあることを示している。さらなる改善を図り、目標達成を目指すため、平成28年度に新規事業として「商店街空き店舗ツアー事業」を実施した。複数の物件を内見し、同行した地元不動産業者による専門的なアドバイスを受けたほか、実際に新規開業した店舗の見学、各種助成制度の説明会なども行われ、参加者は熱心に耳を傾けていた。また、店主が自らコンダクターとなり、お店めぐりを行う商店街ツアーも実施されている。各店のおすすめ品の試食、普段は立ち入れないバックヤードの見学、参加者との意見交換が行われるなど、商店街が工夫して事業を実施している。

今後、にぎわい創出のキーとなる事業を生かし、その経済効果や商業環境の改善状況をPRしながら、引き続き、新規開業の増加及び定着を支援していく。

「観光施設入込数」※目標設定の考え方基本計画 P.76～P.79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	1,571,285 (基準年値)
H26	1,575,349
H27	1,594,380
H28	
H29	
H30	
H31	
H31	1,648,000 (目標値)

※調査方法：観光施設への入込数、毎年度の実績(累計)を15施設で聞き取り調査

※調査月：平成28年4月

※調査主体：酒田市

※調査対象：中心市街地内の15施設における入込数

[山居倉庫(酒田夢の倶楽)、さかた海鮮市場、みなと市場、旧白崎医院、旧鍛屋、海洋センター、山王くらぶ、本間家旧本邸、庄内米歴史資料館、海向寺、相馬楼、資料館、NKエージェント(旧割烹小幡)、山居館、本間美術館]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山居倉庫周辺整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【未】
事業概要	本市で最大の観光入込数を誇り、シンボルである山居倉庫の周辺にある低・未利用地において、山居倉庫と一体的な環境整備を行うもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に本市で策定した「中長期観光戦略」との整合性、市民意見や民間活力を生かした整備内容を検討する必要があることから、当初予定より事業進捗が遅れている。平成28年度には市民アンケート調査を実施したほか、民間事業者のアイデアを対話によって聴取するサウンディング調査を実施した。今後、具体的な整備計画を策定し、平成31年度の完成を目指していく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加36,500人である。

②. 旧割烹小幡改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	映画「おくりびと」のロケ地として注目を集め、その建物の持つ歴史的、文化的価値が見直されている旧割烹小幡を改修し、新たな観光拠点として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年度に「中長期観光戦略」を策定し、平成28年度には市民意見を取り込むためのワークショップを実施したことから、事業進捗が当初予定より遅れている。また、施設の老朽化が進んでいることから、安全対策に関する調査が必要な状況となっている。当該調査の結果を踏まえ、具体的な整備の在り方を検討していく。目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加25,000人である。

③. 中心市街地循環バス運行事業（酒田市）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	公共交通機能を充実させ、中心市街地内の回遊性向上を図るための社会実験として、拠点施設や観光施設を巡回するバスを運行するもの。
事業効果及び進捗状況	社会実験として平成27年度に事業を実施し、136日間でバス運行を行った。累計3,159人が利用し、全体の約59%が中心市街地内の停留所で乗降しており、観光客の回遊性向上に寄与した。

④. みなと市場まつり事業（酒田市みなと市場テナント会）

事業完了時期	平成31年度【実施中】
事業概要	港エリアの観光拠点のひとつである「酒田みなと市場」を生かし、みなとオアシスならではのイベントを開催するもの。
事業効果及び進捗状況	平成28年度に山形県で開催された第36回全国豊かな海づくり大会の式典には約1千人が参列し、関連イベントのひとつとして、「酒田のラーメンエキスポ2016」が開催され、2時間待ちの行列ができるほどの好評を博した。また、昨年に引き続き、酒田市みなと市場テナント会の協力のもと、プロレス団体によるチャリティー大会を開催し、約150人の観客が訪れた。鋭意、観光客入込数増加にむけた、イベントを開催している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、観光入込数の増加1,000人である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

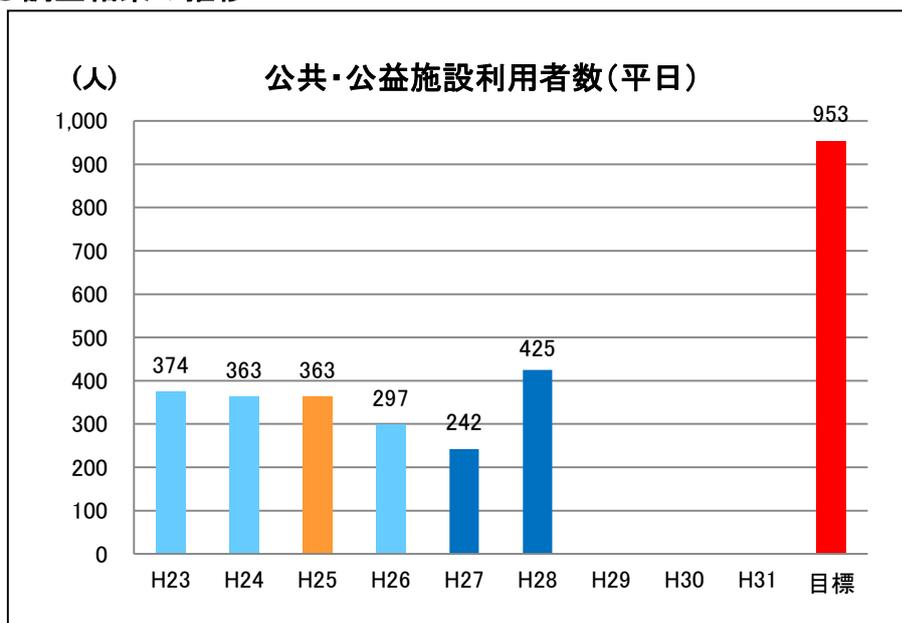
目標指標の最新値は、本市で最大の入込数を誇る「山居倉庫」（夢の倶楽）や、前計画において整備した「酒田みなと市場」を中心に増加傾向となっている。このような中、平成28年9月に開催された、全国豊かな海づくり大会やまがたでは、港エリアでの関連イベントも含め、中心市街地に非常に多くの来街者が訪れた。港エリアにおいては、観光拠点のひとつである「さかた海鮮市場」で新テナントがオープンするなど、利用者数の増加が見込まれている。また、鳥海山・飛島ジオパークの認定、北前船日本遺産の申請など、関係自治体と連携した取り組みが進んでおり、湊まち酒田の知名度向上に寄与している。さらに、酒田港で初となる外国クルーズ船の寄港が決定するなど、インバウンド観光の拡大気運が高まっている。

このような好材料を生かしながら、各観光施設の効果的なPRと魅力向上に努め、回遊性向上による入込数の増加を図っていく。このことから、目標達成は可能と思われる。

また、主要事業に位置付けている「山居倉庫周辺整備事業」や「旧割烹小幡改修事業」では、市民ニーズを取り入れた整備内容を検討するためのアンケート調査やワークショップ等を実施していることから、当初予定より事業進捗が遅れているものの、市民の愛着ある施設とするための検討を重ね、計画期間内での実施を目指していく。

「公共・公益施設利用者数（平日）」 ※目標設定の考え方基本計画 P. 79～P. 81 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H25	363 (基準年 値)
H26	297
H27	242
H28	425
H29	
H30	
H31	
H31	953 (目標値)

※調査方法： 公共・公益施設の利用者、毎年9月の第2火曜日に5施設において計測

※調査月： 平成28年9月

※調査主体： 酒田市

※調査対象： 中心市街地内の5施設における利用者数

[交流ひろば、街なかキャンパス、市庁舎（にぎわい交流施設併設）、中町庁舎（改修整備）、中町にぎわい健康プラザ]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業（酒田市）

事業完了時期	平成28年度【済】
事業概要	大型商業施設跡の空きビルを再生し、市民交流や街なか回遊のための「集いのスペース」と、健康づくりの拠点となる「健康増進スペース」を整備するもの。
事業効果及び進捗状況	平成29年4月に「中町にぎわい健康プラザ」としてオープンした。健康づくりの拠点としての活用のほか、イベント等のソフト事業による活用を含め、他の計画事業と連携し、工夫ある運用を図っていく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加200人/日である。

②. 中町庁舎改修事業（酒田市）

事業完了時期	平成31年度【未】
--------	-----------

事業概要	中心商店街に隣接する空き庁舎予定の公的不動産を有効活用し、市民活動や文化活動等の拠点としてリニューアル整備するもの。
事業効果及び進捗状況	具体的な整備内容を検討しているところであり、平成31年度の完成を目指していく。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加130人/日である。

③. にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）（酒田市）

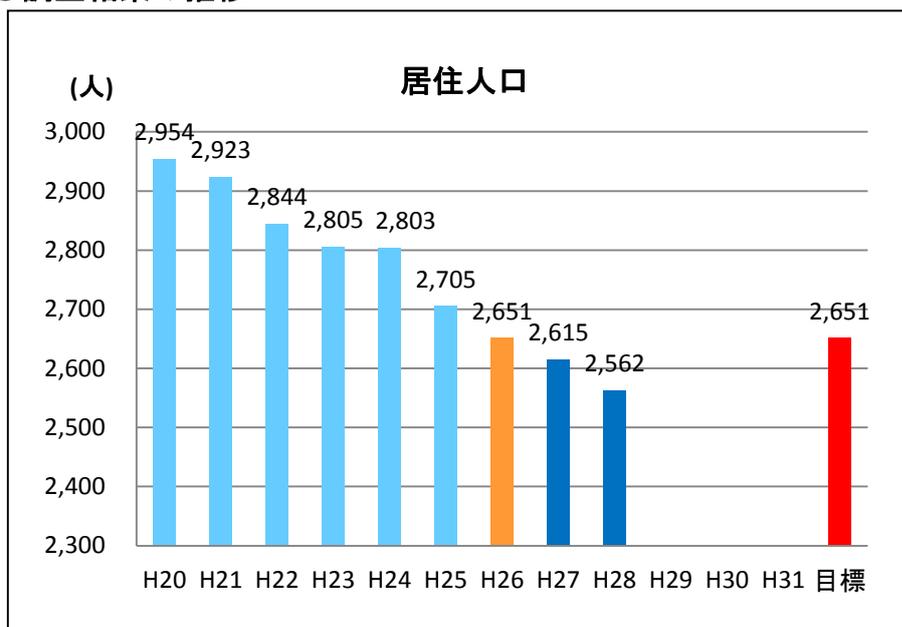
事業完了時期	平成29年度【実施中】
事業概要	市庁舎の新築工事にあわせ、庁舎内ににぎわい交流施設を整備し、中心市街地の各エリアへの回遊性向上及び周辺エリアと連携したにぎわい創出を推進するもの。
事業効果及び進捗状況	平成27年12月に第1期工事が完成し、平成28年1月に開庁した。現在、第2期工事中である。「にぎわい交流サロン」では、来街者が待ち合わせなどに気軽に利用している姿が見られ、設置された観光パンフレットやイベント情報に接するなど、市民交流や情報発信の場になっている。付帯駐車場や外構整備を含め、平成30年3月の事業完成を予定している。 目標設定時に見込んだ事業効果は、施設利用者数の増加260人/日である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は順調に進捗しており、目標達成は可能と思われる。目標指標の最新値は、「にぎわい交流施設整備事業（市庁舎併設）」によって稼働した「にぎわい交流サロン」の実績が加わったことにより、基準値より増加している。現在、新庁舎の建設工事は第2期工事中であるが、完成時には、新たに観光部門や教育部門が入居する予定であるため、観光情報や文化財等に関するPRの場として工夫し、市民交流や街なか回遊の増加を促進していく。このほか、「中町にぎわいプラザ（仮称）整備事業」が完了し、「中町にぎわい健康プラザ」として、大型商業施設の空きビルが市民交流および健康増進施設として再生を果たした。市民交流のスペースは、来街者の休憩や待ち合わせ、テイクアウト品の飲食等に利用できる場として開放するほか、隣接するモールでのイベント時には一体的に活用できる設計となっているため、他の計画事業や周辺施設と連携し、相乗効果を図っていく。また、健康増進機能としては、ウォーキングコースやマシンスペースのほか、各種の健康講座やサークル活動のための多目的スペースを備えており、健康の裾野を広げる取り組みによって、中心市街地の求心力向上を図っていく。

「居住人口（参考指標）」※目標設定の考え方基本計画 P. 81～P. 82 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H26	2,651 (基準年 値)
H27	2,615
H28	2,562
H29	
H30	
H31	
H31	2,651 (目標値)

※調査方法： 居住人口、毎年9月末時点での住民基本台帳により12町丁で調査

※調査月： 平成28年9月

※調査主体： 酒田市

※調査対象： 中心市街地内の12町丁における居住人口

[船場町一丁目、船場町二丁目、日吉町二丁目、幸町二丁目、二番町、中町一丁目、中町二丁目、中町三丁目、本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、山居町一丁目]

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 【追加】 てとて中町整備事業（株福祉のひろば）

事業完了時期	平成27年度【済】
事業概要	中心商店街に位置する空きビルを再生し、高齢者向け住宅やフィットネス施設、カフェ等の複合施設として整備するもの。
事業効果及び進捗状況	高齢者向け住宅として20戸が整備され、平成27年10月にオープンした。現在のところ、満室には至っていないが、今後の街なか居住人口の増加が期待される。また、フィットネス施設やカフェ等の機能を有しており、中心商店街という立地環境もあわせ、世代を超えた地域コミュニティの増進に寄与するものと考えられる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

居住人口は、参考指標として掲げているものであり、街なか居住人口の減少に歯止めをかけていくという意味合いから、目標値は基準値と同数に設定しているものである。

計画区域の中心部である中町エリアでは、民間事業者によって空きビルが改修され、サービス付き高齢者向け住宅を含む複合施設「てとて中町」がオープンしており、街なか居住に資する事業を展開している。また、公共交通の拠点である駅周辺エリアの「酒田駅前地区第一種市街地再開発事業」は、特定目的会社を設立して事業を進めている。当該事業では、集合住宅を含めた複合施設を整備することとしている。このほか、「移住交流推進事業」や「住宅改善支援事業」、「さかたらしい景観づくり事業」などを継続して実施中である。また、「空き家等総合対策事業」では、平成29年度に、空き家情報サイトの開設といった新たな取り組みも予定している。

引き続き、これらの居住誘導施策を行うとともに、中心市街地における都市機能の魅力向上を推進し、民間の投資意欲や街なか居住の気運を高める環境整備に取り組んでいく。